



株主通信 <第55期 第1四半期>

JBCCホールディングス株式会社 (証券コード：9889)



差出人 東京都大田区蒲田五丁目37-1
ニッセイアロマスクエア15F
JBCCホールディングス株式会社
広報IR

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

※本通信は2018年3月末時点での株主様にお送りしています。

01 OPEN

トップメッセージはこちらから。

【ご注意】濡れている場合はよく乾かしてからめくってください。

第1四半期のトピックスをご案内します。

JB Group IT Forum2018を開催しました。

恒例の「JB Group IT Forum2018」を5～6月に東京・名古屋・大阪の3会場で開催し、2,700名を超えるお客様にご来場いただきました。

テーマは、「未来へ、つなぐ。ITで生み出そう、新たな価値を。」AIやIoTの進化によって生み出される可能性を、JBグループおよびパートナー各社とともに、セッションや展示を通じて具体的にご紹介しました。

また、基調講演には、東京会場は元内閣総理大臣 小泉純一郎氏、名古屋・大阪会場には「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」(東洋経済新報社)の著者でもある新井紀子氏を迎えて、ご講演いただきました。



日経IR・投資フェア2018に出展します。

今年も、8月末より開催される日経IR・投資フェアに出展いたします。当日は、企業ブースでの当社紹介と社長による会社説明会を実施いたします。ぜひ、ご来場ください。

- 開催：2018年8月31日(金)～9月1日(土)
- 会場：東京ビッグサイト 東4ホール
- 主催：日本経済新聞社
- 企業ブース：No.35
- 会社説明会：8月31日(金) 14:45～15:10 C会場

【公式サイト】<http://www.nikkei-irfair.jp/>



【IRメール配信サービス(無料)】のご案内

当社の業績など適時開示内容や当グループ内の最新情報をメールでお知らせします。配信をご希望の方は、下記よりご登録ください。

登録サイト

<https://www.jbcchd.co.jp/mail/>

第54期定時株主総会を開催しました。

2018年6月20日に開催した「第54期定時株主総会」には、約100名の株主様にご出席いただきました。議長からの第54期事業報告の後、質疑応答及び議案の採決を行い、議案は全て承認・可決されました。総会終了後は、当社役員との懇談会を実施し貴重な意見交換の機会となりました。

当日の資料・動画は、当社ホームページでご確認いただけます。

【URL】

<https://www.jbcchd.co.jp/ir/2018/06/20/130000.html>



JBグループのCSR

被災企業への「特別修理サービス」を実施しています。

J Bグループでは、平成30年大阪府北部地震および平成30年7月豪雨により被害を受けられたお客様向けに、緊急対応として、交換部品の実費のみを負担いただき、無償で作業をさせていただく「特別修理サービス」を実施しています。また、『平成30年7月豪雨災害支援金募金』を社内で募り、会社からの拠出金と共に日本赤十字社を通じて被災地・被災者に寄付をさせていただきます。

決算等の財務情報に関するご質問は

0120-887-652 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日除く)
e-mail : ir@jbcc.co.jp

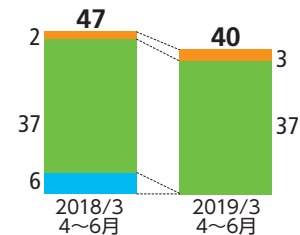
※本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれていません。実際の業績は当社の予想と大きく異なることがありますことをご承知おきください。

第1四半期の概況をお知らせいたします。

注力分野の推進と高収益化への取り組みで、増益となりました。

事業分野別売上総利益 (単位:億円)

■ 製品開発製造 ■ 情報ソリューション
■ ディストリビューション*



■ 製品開発製造

プリンターなどの情報機器及び当グループ独自のソフトウェアの開発・製造・販売

■ 情報ソリューション

企業の情報システムの構築及び運用保守サービス等を提供

*2018年3月期において、ディストリビューション分野に属する株式会社イグアスの全株式を売却したことに伴い、前期の実績のみ掲載しております。

● 情報ソリューション >>> 売上高133億53百万円(前年同期比3.2%増)

クラウド分野は、AI関連サービスでのソフトバンク社との協業の効果や案件の大型化などにより着実に推移しました。NewSI(新システム開発)は前年同期と同水準で推移しました。サービスビジネスは、企業のセキュリティ強化対応により、注力分野でもあるセキュリティサービスの伸長が続いています。システムは、ストレージ(*)の新製品販売が好調に推移しました。

(*)ストレージ: 外部記憶装置

● 製品開発製造 >>> 売上高6億7百万円(前年同期比11.2%増)

JBソフトウェアは、社内外のシステム間の関係を効率化し情報の利活用を実現する、「情報連携支援ソリューション」の売上が伸長しました。また、生産管理システム[R-PiCS]の導入や開発の売上が堅調に推移しました。ハードウェアについては、主力のインパクトプリンターの売上は需要が縮小傾向にはありますが、一層のコスト削減への取り組みとパートナー企業との協業やお客様への新機種切り替え等の施策を推進しました。

ディストリビューション

前年度において、ディストリビューション分野に属する株式会社イグアスが連結対象から外れたことに伴い、当グループの今年度におけるディストリビューション分野の事業活動は行っていません。

ごあいさつ

平素は当社経営に一方ならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2018年度第1四半期が終了しましたので、第1四半期株主通信をお送りし、連結決算概況をご報告いたします。

当第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日~平成30年6月30日)におけるITサービス市場の動向は、企業の既存システム更新に加え、クラウド、IoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)などの具体的な取り組みが進み、IT投資は伸長傾向にあります。当社の主な顧客である中堅企業においても同様の傾向が広がってきております。

今年度は2020年までの中期経営計画「Transform2020」の2年目にあたり、7つの成長事業「WILD7」(クラウドサービス、NewSI(新システム開発)、セキュリティサービス、JBソフトウェア、ヘルスケア(医療)、3D事業、人材育成サービス(研修))に積極的に取り組み、収益力の向上を推進しております。この効果もあり、当第1四半期連結累計期間は、以下のように収益の向上を図ることができました。

【売上高】 139億61百万円 (前年同期比*31.1%減)

*ディストリビューション分野を除いた場合 前年同期比 3.5%増

【営業利益】 6億68百万円 (前年同期比37.9%増)

【経常利益】 7億38百万円 (前年同期比38.9%増)

【親会社株主に帰属する四半期純利益】

5億32百万円 (前年同期比75.6%増)

第2四半期以降も、企業のIT投資は引き続き伸長するものと予想されますので、中期経営計画「Transform2020」をベースとした、お客様のデジタル・トランスフォーメーションの支援を一層推進し、「WILD7」の強化・拡大を着実に進めてまいります。

以上を踏まえ、平成30年4月27日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

当社では毎年「株主様アンケート」を行っております。

本年6月の第54期株主総会決議ご通知と共に、株主の皆様へ送付させていただいた「アンケート」には多くのご回答をいただきました。この場をお借りし、ご協力いただきました株主の皆様へ御礼を申し上げます。皆様からいただいた貴重なご意見は、IR活動の参考にさせていただきます。

今後とも株主の皆様のご期待に沿えるよう、グループ一丸となって邁進してまいりますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

*今回のアンケート結果につきましては、第2四半期の株主通信にてご報告いたします。



2018年8月
代表取締役社長 山田 隆司

配当・株主還元について

株主アンケートでもご質問をいただいております「配当・株主還元」について、当社はすべての株主さまに利益を還元することが重要と考え、株主優待の実施ではなく配当の実施および自己株式の取得・消却により株主の皆様へ利益を還元しております。

特に剰余金の配当については、経営体質の強化と将来のグループ全体としての事業展開を考慮しつつ、株主の皆様へ安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております。